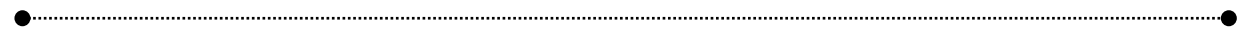


令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	健康プラザうえだ 健幸まつり事業
事業主体 (連絡先)	上田市 0268-28-7123
事業区分	②保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,060,000 円 (うち支援金 : 832,000 円)



事業内容

- 1 開催日 令和元年 11 月 3 日 (日) 終日
- 2 会場 ひとまちげんき・健康プラザうえだ
- 3 参加者 上田市民を中心に約 300 名
- 4 事業内容
 - 運動・体操・エクササイズ体験
 - ・ベビーダンスなど 13 種目
 - 健康コーナー
 - ・体組成測定会、健康相談、減塩食品展示・試食等
 - ・ステージコーナー
 - ・健幸体操楽曲「ほほえみ列車」のライブなど
 - その他
 - ・信州 ACE 弁当販売、地場産農産物販売



【ベビーダンス体験】

【目標・ねらい】

- ①「働き盛り世代・子育て世代」の健康意識の向上
- ②市民の運動習慣化へのきっかけづくり
- ③フレイル予防の周知・啓発

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①市の健康づくりの拠点である「健康プラザうえだ」を休日に開放することにより、親しみをもってもらい、運動や体操、減塩食などの体験を通して効果や楽しさを実感し、健康づくりへの関心を高めることができた。
- ②アンケートから今は運動をしていないが新たに運動をやってみたいと答えた方が、アンケート回収者のうち 45.2%おり、運動習慣化に向け一定の効果があったと思われる。
- ③運動・食事・メンタル等を意識したプログラムにより、参加者に多面的なアプローチをすることができ、フレイル予防の周知・啓発につながられた。

※自己評価 【B】

【理由】
 健幸まつりの満足度を尋ねるアンケートでは、約 9 割の方が満足した、また参加したいと答えており、ねらっていた効果が得られた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

健幸まつり参加者には、講師を依頼した総合型地域スポーツクラブの教室や、市で行っているあたま・からだ元気体操、健幸ウォーキング事業などを紹介し、運動の習慣化を促しており、健幸づくりチャレンジポイント制度やあたま・からだ元気体操の参加者拡大につなげていく。また、来年度も健幸まつりを開催し、市民ひとりひとりの健康意識の向上を図り、健康幸せプロジェクト事業をより一層推進していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
 「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域文化の育成と魅力発信～シティプロモーション～
事業主体 (連絡先)	上田市 (上田市交流文化芸術センター) 上田市天神三丁目 15 番 15 号 0268-27-2000
事業区分	⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業 ③教育・文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	999,526 円 (うち支援金: 799,000 円)

事業内容

昨年度に続き、地域の活性化と、市が推進する「文化の薫る創造都市」実現のため、文化・芸術の発信拠点と位置付けられているサントミュージアムが、アーティストや市民と協働して上田市のシティプロモーション映像を制作。市内外に広く公募し一般市民 14 名が参加。ワークショップ、本番の撮影、市内での撮影 (エキストラ参加) などを経て、ダンスの魅力を感じると共に、市民への非日常体験の創出、芸術の多様性の発見、参加者同士の相互理解・協力へのきっかけ作り、当市の魅力発信と本事業へ参加したことによる、参加者 (アーティスト、市民、撮影協力団体など) からの能動的な情報発信、広く上田市のブランディングを目的に事業を行った。



【ワークショップ (アイスブレイク) の様子】

【目標・ねらい】

- ① 上田市の地域文化活動の育成
- ② 上田市の文化活動の記録と保存 (可視化)
- ③ まちの魅力発信とブランディング
- ④ 新たな出会いと交流の創出、自分発見

事業効果

本事業に取り組んだことにより、市民には鑑賞だけではなく芸術の楽しみ方を知ってもらうことができた。ワークショップ中や撮影の合間で、参加者同士やアーティストとの相互理解やお互いを思いやるなどの場面も多く見られ、地域での新たな出会いの場を創出することができた。

また映像出演を通して、非日常体験の創出、当市事業を知るきっかけ作り、そして地域の魅力を (再) 発見する機会となり「上田のロケ地を訪れたくなった」「自分という存在に自信が持てた」などの感想が寄せられた。地元企業や団体からの撮影協力や情報拡散などの協力も幅広く得られ、「上田はいい街だ、と改めて感じだ」という声も寄せられた。今後は、上田市は勿論、アーティストや参加者のホームページ、SNS、店舗や企業を通して映像の内容を伝えていくことで、さらに上田市のブランディングにつなげていく。

YouTube チャンネル登録者数 目標 340 人 → 実績 397 名

動画再生回数 目標 1,000 回 → 実績 2,171 回

今年度は市街地の観光スポット (H30 年度事業) にとどまらず、普段何気なく見ている景色や地元住民でも知らない場所などを映像によって違った角度から撮影するなど、地域の魅力の掘り起こしを図るなど、継続事業としての工夫・発展に努めた。

※自己評価【 A 】

【理由】・全国から 14 名の応募があり、市外県外からの参加があったことは、当市の魅力を知っていただく上の入り口として、成功したと言える。

また、参加者の感想や SNS での高い評価が多く寄せられ、当館の動画サイトでは、これまでで公開から 12 日間での最も多い再生回数を記録。当市の魅力発信と発見につなげることができた。

今後の取り組み

情報発信ツールとして最も効果が大きい動画を活用し、文化・芸術を通じた上田市の魅力発信とブランディングに努め、市民や地域とアーティストが交流する場を創出していく。また、平成 30 年度制作のシティプロモーション動画が、(一財) 地域活性化センター主催の第 1 回地域プロモーション大賞 (ふるさと動画大賞) で選考委員特別賞「箭内道彦賞」を受賞したことを受け、当市のシティプロモーション動画に注目が集まっている。昨年度のプロモーション動画と併せて、当市のホームページや SNS などで市の魅力を継続して発信していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

平成元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田市結婚支援事業「上田市縁結びプロジェクト」
事業主体 (連絡先)	上田市移住交流推進課 (0268-21-0061)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,065,296円 (うち支援金: 1,548,000円)

事業内容

独身者や親の結婚に対する意識の醸成、相談員など支援者のスキルアップなど、市を挙げて結婚機運の醸成を図るために、民間結婚支援団体と連携し各種事業を行った。

(1) 未婚者向け婚活セミナー及び出会いイベント

①39歳以下独身者向け連続婚活イベント

・参加者：男性15・女性12人

セミナーと交流会への連続参加により、交流会で異性に選ばれるためのコミュニケーション方法やマナー等を学び、併せて出会いの機会を多く持った。

○1回目

男性向け 結婚できるマナー&話し方セミナー

・令和元年9月28日(土) 上田市中央公民館 7名参加

○2回目

男性・女性 地元食材を使った料理教室と交流会

・令和元年10月5日(土) 上田市中央公民館

・男性12名・女性8名参加

○3回目

男性向け ヘアスタイル&身だしなみセミナー

・令和元年10月19日(土) AM 上田市中央公民館

・5名参加

女性向け 婚活メイクレッスン&身だしなみセミナー

・令和元年10月19日(土) PM 上田市中央公民館

・9名参加

○4回目

男性・女性 ミニ交流会・結婚できる婚活セミナー

・令和元年11月2日(土) 上田東急REIホテル

・男性13名・女性8名参加

○5回目

男性・女性 パーティー・婚活を卒業するためのセミナー

・令和元年11月16日(土) 上田高砂殿

・男性11名・女性5名参加

②40歳以上対象 出会いパーティー

婚活マナーやコミュニケーション方法を学びながら交流会を実施。

・令和元年10月26日(土) 上田東急REIホテル

・男性14名・女性13名参加



【(1) ①39歳以下 1回目】



【(1) ①39歳以下 2回目】



【(1) ①39歳以下 3回目男性】



【(1) ①39歳以下 4回目】



【(1) ②40歳以上 お見合い回転すし】

(別記様式第12号)(第3の8関係)

(2) 親のための婚活セミナー&情報交換会

我が子が結婚しない理由、我が子が結婚を意識するために親としてすべきことを学び、親同士の情報交換を行った。

・令和元年9月7日(土) 上田市中央公民館 25名参加

(3) 結婚相談に携わる相談員のスキルアップセミナーと情報交換会

幸せな結婚に導くための支援の仕方やイベントの開催方法を学び情報交換を行った。

・令和2年2月16日(日) 上田市西部公民館 16名参加

(4) SNSによる婚活情勢等の提供及び個別相談

最近の婚活事情等のコラム配信(17回)、無料個別相談相談・情報提供期間

令和元年8月1日～令和元年12月28日



【(2) 親向けセミナー】



【(3) 相談員向けセミナー】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

○上田市婚姻件数

目標 800件 ※参考(H29:743件、H30:674件)

実績 704件(R2.2末現在)

○結婚相談所(社協・JA)新規登録者数

目標 年間60人

実績 60人(R2.2月末現在)

※成婚による退会者も発生するため登録数を指標とする。

※複数回の相談所へ登録することはより成婚の可能性が高くなるため重複した登録も累計としてカウントする。

○SNS(LINE@)を活用した婚活機運向上プログラムの展開

・目標 登録者数100人 ※参考(H30:77人)

・実績 126人

○婚活イベントの対象者を39歳以下と40歳以上に分け、40歳

以上の方の婚活イベントへの参加促進と積極的な交流会を図った。

また、39歳以下の婚活イベントは、セミナーと交流会を連続開催とすることで、異性に選ばれるためのスキルアップを図るなど、継続事業としての工夫・発展に努めた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

独身者は、異性へのマナーやコミュニケーション等に不安があることから、今後もセミナーやSNSでの情報発信、個別相談を実施、出会いの場を提供するとともに、フォローアップも行うことで交流会でのカップリングや成婚率向上につなげたい。

また、親や相談員のセミナーも継続し、結婚を希望する独身者の支援を行っていく。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

【目標・ねらい】

①上田市婚姻件数

②結婚相談所(社協・JA)新規登録者数

③SNSプログラム登録者数

※自己評価【B】

【理由】

婚姻数は目標に達成していないものの、前年度より増加。結婚相談所への登録者数、SNSへの登録者数は目標に達し、結婚への意識が醸成されてきていると考える。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	東御市結婚活動支援事業「であうとうみ」
事業主体 (連絡先)	東御市 (東御市県 281-2)
事業区分	(8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	714,000 円 (うち支援金 : 535,000 円)

事業内容

東御市の結婚適齢期世代の結婚に向けた意識の醸成を図り、適切な情報発信や取り組みを行い、地域を挙げた結婚活動支援を行う。

- 1 保護者向け講演会 7月30日(火) 中央公民館 参加者 27名
 適齢期世代の保護者向け講演を行い、子どもの年代別に交流会を実施
 2 セミナーと出会いのイベントの開催 (全3回)
 - ① 東御市のワインを知る 9月1日(日) 10時~16時
 Rue de vin(リュードヴァン) 参加者 19名
 - ② 芸術むらで BBQ 10月20日(日) 10時30分~16時
 芸術むら公園キャンプ場 参加者 18名
 - ③ 一軒家レストランでミニパーティ 11月10日(日) 10時30分~15時
 イタリアン料理 ノンナジーニャ、海野宿うんのわ 参加者 17名
- 3 広報 市 HP、チラシ、委託事業所 HP、フリーペーパー、県 HP 等



【 イベントの様子 】

【目標・ねらい】

- ① 結婚活動支援事業の啓発及び結婚適齢期世代の結婚に向けた意識の醸成
- ② イベント参加者によるカップリング
- ③ イベントを通じた交流人口の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 市 HP やチラシ、委託事業所 HP、フリーペーパー等により県内外に周知することができた。また親向け講演会の開催等も含め、結婚に向けた意識の醸成の後押しに繋がった。
- ② 出会いのイベントについては、応募数 60 名に対し、参加者数 54 名、カップリング数 11 件となり一定の成果がみられた。
- ③ 出会いのイベント参加のため初めて東御市を訪れたり、県外から参加した方もいた。ワインぶどうやワイナリーに興味がある方も多く、市の観光事業のワインフェスタにもつながった。芸術むら公園での BBQ や海野宿の散策では秋の観光地をゆったり楽しみながら、新たな出会いと交流ができ東御市の魅力を知っていただく機会となった。

※自己評価【 B 】

【理由】

未達成の目標値はあったものの、本事業の直接的な効果であるカップリング成立件数は目標値を達成し、予定した効果が得られた

- ・カップリング 11 件 (目標値 10 件)
- ・婚姻数 103 件 (2 月末現在)
(目標値 131 件維持)
- ・しあわせ信州婚活サポーター 0 人
(目標値 2 人)

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- 今回カップリングした方には、委託した事業所での継続的なお付き合い支援を依頼していき、成婚につながるよう関わっていただく。また希望者には社協や J A、委託事業者の結婚相談所に登録いただき、婚活がしやすい情報を提供していく。
- 今後も婚活を支援するため、次年度開催予定の上田地域定住自立圏構成市町村で行う合同イベントや県婚活支援センターに関する情報提供を引き続き行っていく。
- しあわせ信州婚活サポーターや結婚相談員等の人材育成を継続して行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」推進事業
事業主体 (連絡先)	長和町 (長野県小県郡長和町古町 4247-1)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,087,258 円 (うち支援金: 869,000 円)

事業内容

日本遺産認定による地域振興を目指し、認定の核となった歴史遺産のジオラマ作成やその記念コンサートの開催、また、日本遺産の魅力を内外に発信するHPの開設に向けての編集・取材に地域の方々の参加・協力を求め、地域住民が楽しみながら主体的に参加する推進事業の体制を構築する。

- 1, 地域伝統技術を活かした黒耀石鉾山ジオラマ製作
黒耀石体験ミュージアム隣接地
- 2, 日本遺産記念コンサート: 8月12日
(黒耀石鉾山ジオラマステージ)
- 3, 日本遺産HPの開設
www.hoshikuso.jp/obsidian/

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 日本遺産認定のアピール事業に、町内外を問わず多くの参加者や反響が得られた。期間来場者 4521人
- ② 日本遺産の意義や価値を担い手である町民とともにアピールする取り組みを行ったことにより、地域の歴史遺産の魅力を再認識して頂いた。
- ③ 事業の推進にあたり商工観光をはじめ多業種の方が参加する歴史遺産を核とした地域振興事業のモデルを構築できた。
- ④ HPの編集をはじめ、地域の魅力を海外に発信するための協力者を得ることができた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・日本遺産認定と地域の魅力を発信する活動を継続的に行う。
- ・活用の受け皿として、他分野の人材が参画する組織づくりを目指す。
- ・歴史遺産から各種の産業に広がる活用の手法を研究するとともに、その主体者となる人材育成に取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【黒耀石鉾山の山車ジオラマ】

【目標・ねらい】

- ① 日本遺産認定による地域振興
- ② 文化力活用意欲の醸成
- ③ 歴史遺産の多角的活用法の開発
- ④ インバウンド事業への発展

※自己評価 【A】

【理由】

- ・地域に浸透している伝統文化継承者との共働による画期的な取り組みとなった。
- ・ジオラマ製作、HP開設において地域住民との協力体制が強まり、日本遺産の活用事業に対する期待を醸成する成果につながった。
- ・ミュージアム来館者数、情報発信の効果が目標を上回ることができた。

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	歴史遺産を核としたオリエンテーリングモデル事業
事業主体 (連絡先)	長和町 (長野県小県郡長和町古町 4247-1)
事業区分	(3) 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,334,079 円 (うち支援金: 1,008,000 円)

事業内容

『ぐるっと町ナビ黒耀石ツアー』として、町一周巡回バスツアーを7月14日に開催した。また、併せて発掘調査が行われている国史跡星糞峠の黒耀石鉱山を見学した。

当地域は、本州最大規模の黒耀石原産地を背景とする旧石器や縄文時代をはじめとし、中世の仏岩や江戸時代の中山道など、多様な歴史遺産を今に留めている。昨年に引き続き、黒耀石体験ミュージアム友の会のガイドで町一周を巡るバスツアーは、地域の歴史遺産を観光資源として活かすモデル事業として実施し、地域資源の再発見とその魅力を発信する人材育成を試みた。



【友の会のガイドによる黒耀石ツアー】

【目標・ねらい】

- ① 観光資源としての歴史遺産の活用
- ② 地域の魅力の再発見
- ③ 歴史遺産活用人材の育成と住民への啓発
- ④ 地域の魅力発信

※自己評価【B】

【理由】

- ・参加者の満足度が高く、昨年以上の参加があったほか、継続での参加者も見られた。
- ・星糞峠の見学会は、台風により中止の可能性が強かったため、一般の参加者数の伸びに影響があったが、見込みに対し100%の参加者があった。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 身近にある歴史遺産とその魅力を知る町一周巡回バスツアーは昨年に引き続き2回目となるが、昨年の申し込みを超える反響をえることが出来た。
- ② 地域のガイドを育成する試験的な試みでもあり、町民向けに参加者を募ったが、評判を聞きつけ、町外からの問い合わせ等もあった。
- ③ 黒耀石体験ミュージアム友の会としても、昨年の経験からガイドの内容に工夫を重ねることが出来たが、参加された方には概ね好評であった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ・ツアーは2回目であったが、概ね好評で、町外からの問い合わせもあった。今後、町外からのツアー参加者を受け入れる事業に発展させたい。
- ・歴史を学ぶ友の会以外にもインバウンド事業に取り組むボランティア団体の熱心な参加があり、今後のツアー企画についても広く意見を求めてブラッシュアップを図りたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アニマルシェルター整備事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 一匹でも犬・ねこを救う会 上田市上丸子1042-8
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	608,607円 (うち支援金: 415,000円)

事業内容

上田地域の犬猫殺処分ゼロを持続できるよう、一時保護及び再譲渡の拠点として、また独居高齢者の死去、入院による飼育放棄、多頭飼育崩壊による持込の課題にも対処するための活動拠点として、アニマルシェルターを設置運営している。このアニマルシェルターの環境改善のため整備する。

具体的には、フローリングカーペット貼り、空調機器据付、駐車場デッキ支柱の修繕工事を実施し、施設の安全・衛生環境の改善を図った。



【フローリングカーペット整備後】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・フローリングカーペット貼り→簡単に清掃でき、衛生面、清掃労力面から飼養環境を改善できた。
- ・空調機器据付→7月下旬以降の猛暑においても全室、最適な温度を維持でき、空調面から飼養環境を改善できた。
- ・駐車場デッキ支柱の修繕工事→世話係の毎日の駐車や、9月以降のオープンシェルターの来客の駐車を安心して迎え入れる体制が整い譲渡環境を改善できた。

以上、・開設時の約50匹から現時点で約100匹を健全に収容でき、“収容力”が質・量とも向上した。また、健康良好な状態での再譲渡が可能となった。

- ・4月～8月の譲渡実績 犬4匹、猫37匹

【目標・ねらい】

- ① 衛生、労力面の飼養環境改善
- ② 空調面の飼養環境改善
- ③ 駐車デッキ修繕により来客を安全に受け入れ譲渡環境を改善

※自己評価【B】

【理由】

計画したシェルター整備内容を全て実施して、目標の環境改善を達成した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① シェルター環境の改善により個体の健康状態が良好なことを、再譲渡につなげていきたい。
- ② 独居高齢者の入院死去に伴う飼育放棄や野良猫の苦情相談、多頭飼育崩壊などの相談が増えている。保護を要する犬猫を元から減らすため、地域住民、自治会、福祉、介護の機関と連携するため、事務所拠点としても大いに活用したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	アニマルシェルター整備事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人 一匹でも犬・ねこを救う会 上田市上丸子1042-8
事業区分	(2) 保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	608,607円 (うち支援金: 415,000円)

事業内容

上田地域の犬猫殺処分ゼロを持続できるよう、一時保護及び再譲渡の拠点として、また独居高齢者の死去、入院による飼育放棄、多頭飼育崩壊による持込の課題にも対処するための活動拠点として、アニマルシェルターを設置運営している。このアニマルシェルターの環境改善のため整備する。

具体的には、フローリングカーペット貼り、空調機器据付、駐車場デッキ支柱の修繕工事を実施し、施設の安全・衛生環境の改善を図った。



【フローリングカーペット整備後】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・フローリングカーペット貼り→簡単に清掃でき、衛生面、清掃労力面から飼養環境を改善できた。
- ・空調機器据付→7月下旬以降の猛暑においても全室、最適な温度を維持でき、空調面から飼養環境を改善できた。
- ・駐車場デッキ支柱の修繕工事→世話係の毎日の駐車や、9月以降のオープンシェルターの来客の駐車を安心して迎え入れる体制が整い譲渡環境を改善できた。

以上、開設時の約50匹から現時点で約100匹を健全に収容でき、“収容力”が質・量とも向上した。また、健康良好な状態での再譲渡が可能となった。

- ・4月～8月の譲渡実績 犬4匹、猫37匹

【目標・ねらい】

- ① 衛生、労力面の飼養環境改善
- ② 空調面の飼養環境改善
- ③ 駐車デッキ修繕により来客を安全に受け入れ譲渡環境を改善

※自己評価【B】

【理由】

計画したシェルター整備内容を全て実施して、目標の環境改善を達成した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

- ① シェルター環境の改善により個体の健康状態が良好なことを、再譲渡につなげていきたい。
- ② 独居高齢者の入院死去に伴う飼育放棄や野良猫の苦情相談、多頭飼育崩壊などの相談が増えている。保護を要する犬猫を元から減らすため、地域住民、自治会、福祉、介護の機関と連携するため、事務所拠点としても大いに活用したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

- 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
- 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	若者自立支援への農業の活用と上田市の新しい特産品の創出
事業主体 (連絡先)	認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人 長野県上田市本郷1524-1 0268-38-0063
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,334,591円 (うち支援金: 922,000円)

事業内容

- 1 機械を活用した効率的な農業体験を通して、若者の自立支援を図るため、遊休農地を活用して大豆の生産を実施した(5月~12月)。
- 2 大豆活用による特産品開発実現のため大豆コーヒーの開発(試作品の作成、アンケート調査・分析等)に取り組んだ(9月~3月)。
- 3 大豆の生産、特産品創出にあたり、農家や事業者、大学、地域づくり団体等、新たな連携先を開拓し、世代、地域を越えた交流を推進した。



【目標・ねらい】

- ① 農業での若者自立支援
- ② 遊休農地の活用
- ③ 地域との連帯
- ④ 新たな特産品の創出

事業効果

- 1 農業体験により、混合燃料の作り方や機械操作などを生徒が習得した。
 - ・大豆生産参加生徒数 延べ28名
 - ・大豆収穫量 397kg (選別前)
 - ・良品 257kg (選別後)
- 2 大豆コーヒー開発において、試作、試飲、パッケージ制作等を重ねる中で生徒が自分に合った作業を見つける事ができ、就労不安が軽減された。また、地域企業の店舗等での試飲の実施により、新たな連携が生まれるとともに、特産品開発に向けた具体的な意見や提案等を得ることができた。
 - ・試飲調査件数 368件
 - ・試飲アンケート調査 企業等9者、10箇所
アンケート回収累計308件
- 3 大豆コーヒーの開発で共同作業に携わったことをきっかけにコーヒー雑談などの生徒の会話が増え、コミュニケーションスキルがアップし、自立支援に効果があった。

※自己評価 **【 A 】**

【理由】

- ・生徒が機械操作などを習得。
- ・遊休田畑を使用することができた。
- ・地域での新たな繋がりができた。
- ・大豆活用の新たな視点を生み出すことができた。

今後の取り組み

試飲調査により大豆コーヒーに関して沢山の具体的な改善点や参考意見を頂けたので、それらを踏まえて研究開発し、商品化に向けていきたい。大豆コーヒーに限らず、今後も大豆を生産して行く中で大豆活用の新たな視点を探求していきたい。

また、本事業の取組みにより、様々な団体等とのつながりを生むことができた。今後は新たなつながりを通して、さらに活動を広げていき、多様化する若者自立支援に地域と連携して取り組めるようなシステムを構築していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
 「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
 「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上田まちなかイタリア交流ブランディング推進事業
事業主体 (連絡先)	上田商工会議所 (経営支援課 担当: 唐澤 TEL: 22-4500)
事業区分	(6) エ 商業の振興 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,748,947円 (うち支援金: 1,386,000円)

事業内容

①2019年ラグビーワールドカップ日本開催に伴い、イタリア国代表チームが2018年に引き続き菅平高原でトレーニングキャンプを実施することに合わせ、イタリアを身近に感じ、チームを歓迎する機運の醸成を図るとともに、地域資源のブランディングを推進するため事業を実施。

【イタリア交流講座】 第1回 イタリア語講座

第2回 上田の食材を使った海外プロモーション

第3回 イタリアワインを気軽に楽しむ

【地域資源ブランディング事業】

各セミナー翌日に、講師をアドバイザーとして市内事業者8社を訪問しアドバイスによるブランディング支援を行った。

【信州上田まちなかイタリアフェスタ】

イタリアを身近に感じてもらうため、イタリアと上田色のイベントを開催した。



【第1回交流講座】

【目標・ねらい】

- ①中心市街地における歓迎機運醸成
- ②中心商店街への誘客と販売促進
- ③地域資源(商品)のブランディング

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①イタリア交流講座の開催により、あえて少人数ではあるが市民がイタリアの文化をより深く知る機会を提供できた。

第1回 33名 第2回 13名 第3回 14名

②インバウンドや海外向け等を見据えた、地域資源を活用した商品や料理等に対し、アドバイザーより適切なアドバイスを行えた。

第1回 3社 第2回 2社 第3回 3社

③信州上田まちなかイタリアフェスタの開催により、多くの市民が来場し、イタリアワインや地元の食材を使った料理等を味わいながら、気軽にイタリアを楽しんでいただけた。参加者数200名

また、地元商店街と協力して開催することができ、出店した事業者の認知も高まった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

①現在開催されているラグビーワールドカップ2019日本大会に参加する、イタリア国代表チームが菅平高原でトレーニングキャンプを行うことからスタートした事業であるが、2年間の事業でイタリアに関する市民の関心が高まり、気軽にイタリアを楽しむ機運が生まれたことは大きく、また開催に協力いただいた中心商店街やイベントに出店いただいた事業者の方等との協力関係を深められたことが一番大きいと、今後も協力関係を維持しつつ、中心市街地の活性化や回遊性の向上、出店事業者や商店街の個店等の販促や販路開拓につながるイベント、取組を行ってきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価【A】

【理由】

- ①2年目の事業として、交流講座はあえて少人数に絞り開催し、参加者がより深くイタリアの文化等に触れる機会を提供できた。
- ②事業者向けには、イタリアを良く知るアドバイザーによるブランディング支援ができた。
- ③多くの市民向けとしてイタリアフェスタで気軽にイタリアを感じて楽しんでいただけ、参加した事業者や商店街ともしっかりと連携が取れ、満足度も高かった。